

Discover DentalAsia バンコク 2014

期間：2014年12月17日（水）から19日（金）

拠点ホテル：Pathumwan Princess Hotel (<http://www.pprincess.com/>)

訪問先：展示会 Thai Dental Association Conference (Bangkok Convention Center at Central World, Bangkok)、チュラロンコン (Chulalongkorn) 大学、一般歯科医院 富士 JDC 歯科医院、歯科医療機器工場 SiamDent (モリタ関連会社)

参加者：個人会員歯科医師 6 名、法人会員企業 2 社

17 日（水曜日）、市内の個人歯科医院、富士 JDC 歯科医院を訪問。院長は Atiphan Pimkhaokham 先生で、東京医科歯科大学の口腔外科で学位を取得し、現在はチュラロンコン大学歯学部で教員、もう一人が Wacharasak Tumrasvin 先生で、彼も東京医科歯科大学に留学し補綴で学位を取得した。受付と診療中の通訳は日本人でタイ語のできる男性であった。すべて私費診療で、日本企業の駐在員とその家族を対象としている。夕刻には同じく市内で開業している日本人歯科医師、音成貴道先生を囲む食事会を開催し、音成先生には参加者との様々な議論に参加して頂いた。

18 日（木曜日）、午前中はタイ歯科医師会 (DAT) 主催の歯科学術集会・展示会に参加、内外 100 社余りの歯科企業の商品展示と説明があった。午後、Siamdent の工場見学、この会社はモリタ製作所（京都市、さいたま市）からの技術支援で、タイ、東南アジアで求められる歯科用ユニットを生産するために 1989 年に設立された。西森社長以下、スタッフの案内でチェアーの製作過程を丁寧に見て回った。夕方は川べりのレストランでの懇親会となった。

19 日（金曜日）、朝からチュラロンコン大学を訪問。この歯学部の卒業生には日本への留学生が多い。歯学部長の Suchit Poolthong 先生から歯学部の沿革と現状について、スライドとビデオで説明があり、その後、院内を見学した。教員の主たる仕事は学生教育であり、臨床教育が充実している。学生は多くの患者を診ている。学生の場合、患者が負担する診療費用は教員の 1/10 程度、歯科診療費は保険でカバーされていないので、学生での診療を希望する患者は多数いる。ユニット数は 450 台余り、その多くが教育用である。タイには歯学部が 9 校あり、タイ全体で年間 770 名程度の歯科医師が誕生している。人口 6600 万人に対して歯科医師数は 12,000 名で、決して歯科医師は多くないが、減少させる予定だという。歯科医師の偏在は顕著で、バンコクに半数、バンコク以外の大都市に 1/4、残りの 1/4 が地方である。その後、歯学部の歴史を物語るミュージアムを見学した。歯科の歴史を知るにはいい施設であった。昼食は近くの Royal Bangkok Sports Club のレストランでの学部長を囲む会食、会員制のクラブで、優雅な気分であった。午後 2 時、食事が終了し解散となった。大学側の丁寧なもてなしに参加者一同、心から感謝した。

今回のツアーは先生方にも企業の方にとっても、非常に実り多いものになったと確信している。

ADF 専務理事 岡野友宏